

昨年より「減りそう」が増加、「生活費補填」の位置づけ高まる ～2012冬のボーナス調査 結果概要～

公益財団法人地方経済総合研究所では、今回が21回目となる「冬のボーナス」についてアンケート調査を実施した。

【調査結果の概要】

1. 今年の冬のボーナス予想は、昨年と比べて「ほぼ同じ」が約半数を占め、「減りそう」は5.1ポイント増加し、40.0%であった。「増えそう」は1.6ポイント減少し、わずか8.7%にとどまった。
2. ボーナスの使いみちでは、昨年に続き、「貯蓄・資産運用」(60.7%)、「買い物」(38.6%)と続いたが、「生活費補填」(38.1%)が昨年から6.8ポイント増加して3番目となり、次いで「ローン・借金の返済」(33.8%)となった。
3. ボーナスの使いみちとして最も回答の多かった「貯蓄・資産運用」の中で、具体的に選ぶ商品は「預貯金」が98.0%と圧倒的に高かった。
4. ボーナスの使いみちとして2番目に回答の多かった「買い物」の中で、購入予定の商品としては、「洋服」が47.1%と最も高く、「靴・バッグ」(25.2%)、「食材・おせち料理」(16.8%)と続いた。昨年増加した「スマートフォン」は10位の3.9%にとどまり、今年注目を集めた「タブレット端末」はわずか3.2%であった。

【調査概要】

1. 調査対象：熊本県内在住のボーナスがある人（世帯）
2. 調査時期：2012年11月1日～6日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：株式会社マクロミル）
4. 有効回答：402人
5. 回答者の属性（人・%）

	未既婚			年代				勤務先			
	全体	未婚	既婚	20代	30代	40代	50代	公務員・ 独立行政 法人	民間事業 所・団体 (本社熊 本県内)	民間事業 所・団体 (本社熊 本県外)	その他
全体	402 100.0	106 26.4	296 73.6	90 22.4	104 25.9	104 25.9	104 25.9	89 22.1	204 50.7	103 25.6	6 1.5
男性	194 100.0	59 30.4	135 69.6	38 19.6	52 26.8	52 26.8	52 26.8	42 21.6	107 55.2	41 21.1	4 2.1
女性	208 100.0	47 22.6	161 77.4	52 25.0	52 25.0	52 25.0	52 25.0	47 22.6	97 46.6	62 29.8	2 1.0

勤務先*：未婚者には自身の勤務先を、既婚者には主に家計を担っている人の勤務先を尋ねた

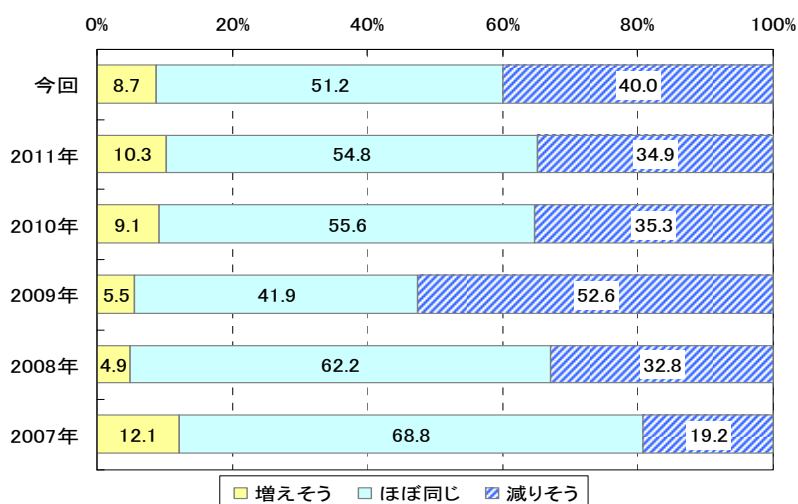
1. 今年の冬のボーナス予想

今年の冬のボーナス増減予想は、昨年と比べて「ほぼ同じ」が51.2%と最も多く、次いで「減りそう」が40.0%であり、「増えそう」はわずか8.7%であった。今回は「減りそう」が昨年より5.1ポイント（以下、p）増加し、長引く景気低迷、歴史的円高の影響などから、ボーナス支給予想が一層厳しくなっているものと思われる（図表1）。

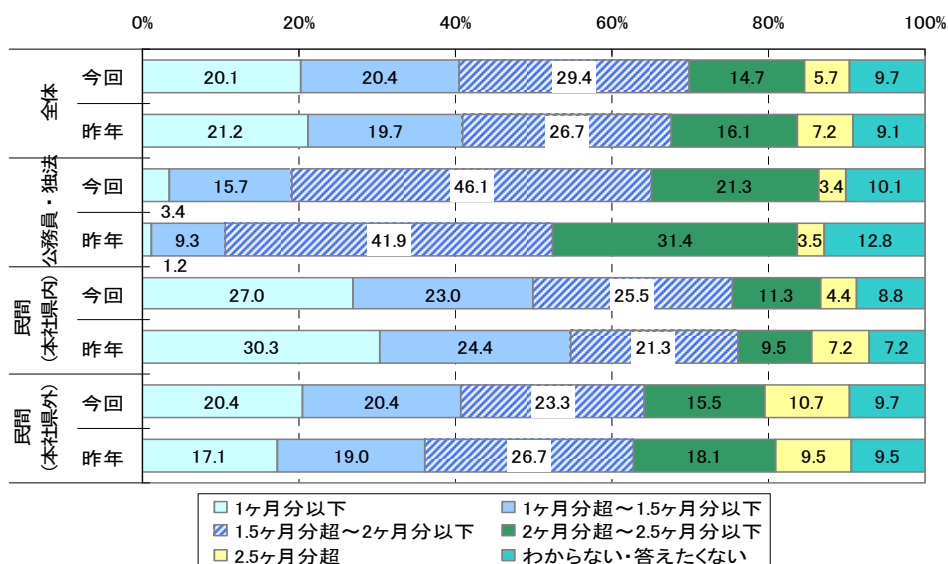
また、支給月数の予想では、全体で「1.5ヶ月分超～2ヶ月分以下」が29.4%と最も多く、4割が1.5ヶ月分以下と予想しており、昨年と比較して大きな変化は見られなかった。

次に、勤務先別に昨年の支給月数予想と比較してみると、「公務員・独法」では、「2ヶ月分超～2.5ヶ月分以下」が21.3%であり、昨年の31.4%から約10p減少しているが、東日本大震災の復興財源捻出のため、国家公務員の給与を今年4月から2年間、平均7.8%削減するという臨時特例法の影響とも考えられる。民間事業所・団体では、昨年と比較して大きな変化はないが、「本社が熊本県内」と「本社が熊本県外」の今回の結果を比較すると、1ヶ月分以下では「本社が熊本県内」が、「2ヶ月分超」では「本社が熊本県外」が多くなるなどの違いが見られた（図表2）。

図表1 ボーナスの増減予想推移



図表2 支給月数予想（勤務先別）



2. ボーナスの使いみち

次に、ボーナスの使いみちをみると（複数回答）、「貯蓄・資産運用」が60.7%で最も多く、「買い物」(38.6%)が2番目となっている。昨年は、3番目に「ローン・借金の返済」となっていたが、今回は「生活費補填」が昨年より6.8p増加し、「買い物」とわずか0.5pの差で3番目となっている。もはや、ボーナスが生活費の一部に充てられる傾向が高まっているものと思われる。一方、昨年に比べて、減少傾向が一番強かったのは「国内旅行」であり3.8p減の8.2%であった。家計にもより一層の引き締めが行われていると思われる（図表3）。

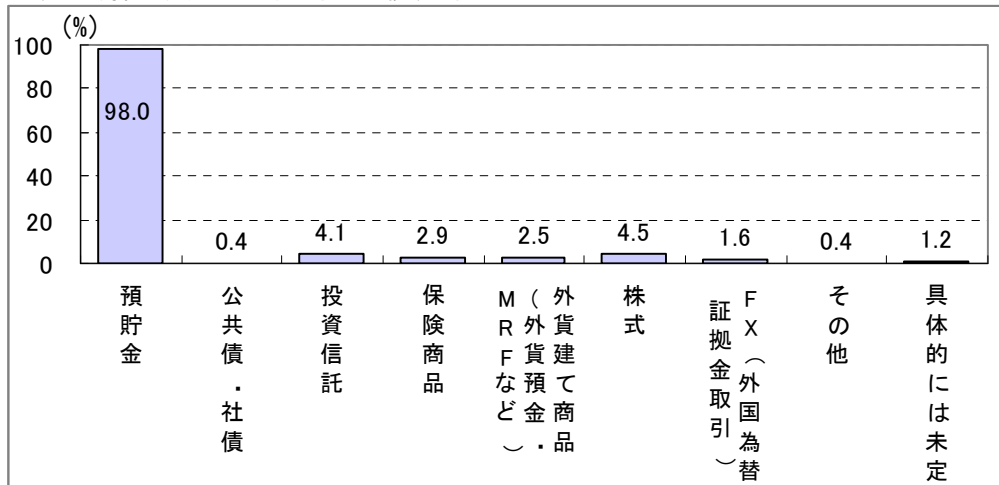
図表3 ボーナスの使いみち（複数回答） (%)

順位	使いみち	今回	昨年	差(p)
1	貯蓄・資産運用	60.7	64.4	-3.7
2	買い物	38.6	38.0	0.6
3	生活費補填	38.1	31.3	6.8
4	ローン・借金の返済	33.8	35.8	-2.0
5	子供の教育費	21.6	19.2	2.4
6	外食	14.4	14.9	-0.5
7	保険料支払	12.2	11.5	0.7
8	国内旅行	8.2	12.0	-3.8
9	自己投資	4.2	5.3	-1.1
10	住宅補修・改修	2.7	1.7	1.1
11	海外旅行	2.2	1.7	0.6
12	その他	2.2	4.1	-1.8
13	未定	6.5	4.8	1.7

3. 貯蓄・資産運用の予定について

ボーナスの使いみちとして「貯蓄・資産運用」を選んだ244人に対して、具体的に選ぶ商品を探ねたところ、預貯金が98.0%と圧倒的に高く、預貯金以外の商品を回答した人はわずかしかいなかった。「貯める」意識は高いものの、資産運用で「増やす」という意識は低いものと思われる。超低金利ではあるが、長引く景気の低迷から、リスクを避け、安全性を重視する傾向がますます強くなっているものと思われる（図表4）。

図表4 貯蓄・資産運用で選ぶ商品（複数回答 n=244）



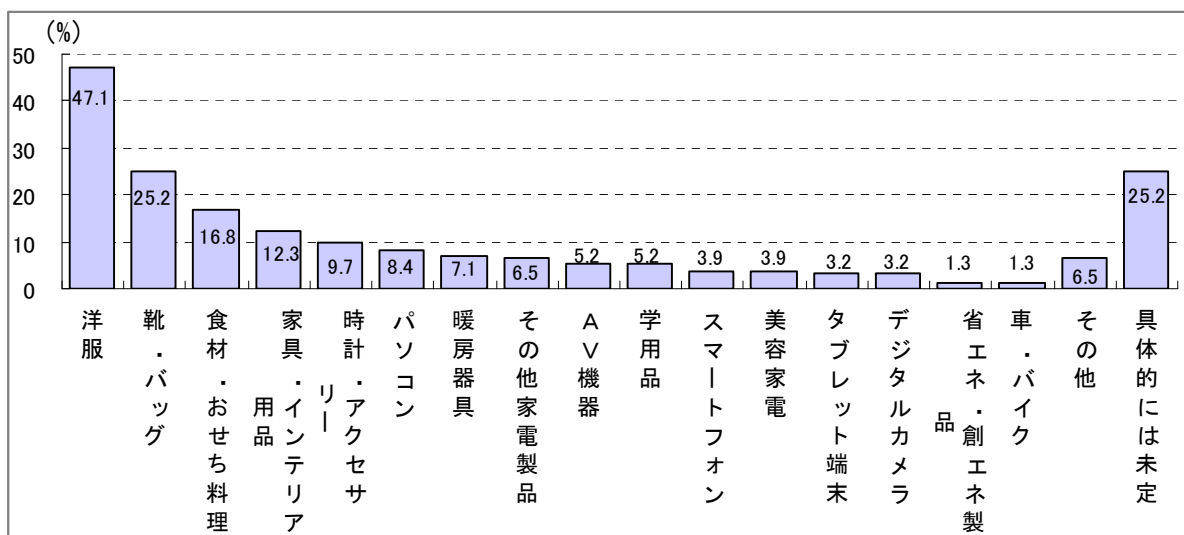
4. 買い物の予定について

ボーナスの使いみちとして、2番目に回答の多かった「買い物」を選んだ155人に、何をかう予定かを尋ねたところ「洋服」が47.1%で最も多く、2番目は「靴・バッグ」(25.2%)であり、「食材・おせち料理」(16.8%)、「家具・インテリア用品」(12.3%)と続いた。「スマートフォン」は、ある程度普及が定着したためか10番目(3.9%)であり、iPadなどに代表される「タブレット端末」は、3.2%と予想よりも少なかった(図表5)。

年代別に見ると、「洋服」、「靴・バッグ」はどの年代でも高いが、特に20代を中心に購入予定者が多い。30代では「学用品」が、40代になると「食材・おせち料理」が高くなり、50代では「パソコン」が、意外にもどの年代よりも高かった(図表6)。

このように、今年の冬のボーナス予想においては、支給額の減少予想から、家計の一層の引き締め感がうかがえ、ボーナスが特別な収入というよりも生活費の一部としての位置づけが強まっているものと思われる。

図表5 買う予定のもの(複数回答 n=155)



図表6 年代別にみた買う予定のもの(複数回答 n=155)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
	洋服	靴・バッグ	食材・おせち料理	家具・インテリア用品	時計・アクセサリー	パソコン	暖房器具	その他家電製品	AV機器	学用品
全体	47.1	25.2	16.8	12.3	9.7	8.4	7.1	6.5	5.2	5.2
20代	58.8	32.4	11.8	17.6	14.7	5.9	2.9	5.9	8.8	0.0
30代	46.2	28.8	5.8	13.5	9.6	9.6	9.6	7.7	3.8	7.7
40代	51.3	23.1	28.2	10.3	5.1	5.1	5.1	10.3	7.7	5.1
50代	30.0	13.3	26.7	6.7	10.0	13.3	10.0	0.0	0.0	6.7